

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2013 年 5 月

「パートー贖罪の犠牲 (V)」 「改心と新しい生活」 「キリストの再臨」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「パートI-贖罪の犠牲 (V)」

4

朝のマナ

「改心と新しい生活」

7

信仰によってわたしは生きる

現代の真理

「キリストの再臨」

39

最後の出来事

力を得るための食事

「ヤクシツク (韓国風薬膳)」

46

お話コーナー

「成功のためにやわらかくされる」

48

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話 : 0494-22-0465

FAX : 0494-26-5059

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話 : 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話 : 0980-55-8136

アクセス

ホームページ : <http://www.4angels.jp>

メール : support@4angels.jp

発行日 2013 年 4 月 30 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sozai on front cover;

HighRes on pages 48

愛とは何か？

—それは聖化された意志の決定である—

なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。……彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。(コリント第二 5:14,15)

必要とされるのは、心の中にキリストの愛をもつことである。自己は十字架につけられる必要がある。自己がキリストの中に没入すると、真の愛がおのずとわき出てくる。それは感情とか衝動ではなく、聖化された意志の決定である。それは感情の中にはなく、自己に死に神のために生きるという、全身全霊そして品性全体の改変の中にある。わたしたちの救い主なる主は、わたしたちが自分自身を彼に捧げることをお求めになる。神に自己を屈服させること、神がよしとされる働きのために自己を捧げることがこのお方の要求なさるすべてである。(バイル・コメント [E.G. 初刊] 6 巻 1100)

ただ必要なのはほんとうの意志の力とはなんであるかを知る事である。意志とは人の性質を支配している力、決断力、選択の力である。すべてはただ意志の正しい行動にかかっている。……意志は神にささげることができる。そうすれば神はわたしたちのうちにお働きになって、神の喜ばれるように望み、また行おうようにしてくださる。……

善ときよきを望むのは正しいことであるが、そこでとどまるならなんの役にも立たない。クリスチャンになりたいと望みながら、滅びていく人が多い。かれらは神に自分の意志をささげるところまでこないからである。……

意志を正しく働かせるならば生活は全く変ってしまう。……そして……、絶えず神に屈服することによって新しい生涯、すなわち信仰の生涯を送ることができるようになるのである。(キリストへの道 60, 61)

主は、世のさし迫った運命を見て決心される。……いまイエスの祈りには、「この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように」と、服従することだけが表明される (マタイ 26:42)。

決心をされると、イエスは、それまでわずかにからだをもたげておられた地面に、いまにも死んでしまわれるかのようにはったり倒れておしまいになった。(各時代の希望下巻 183)

それだから、わたしたちは今後、だれをも肉によって知ることはすまい。かつてはキリストを肉によって知っていたとしても、今はもうそのような知り方をすまい。だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。……神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあつて神の義となるためなのである。(コリント第二 5:16 ~ 21)

神に対する真の愛は十戒のすべてを守ることにあらわされる。(患難から栄光へ下巻 266)

贖罪

パート I－贖罪の犠牲 (V)

X. 贖罪を通して備えられた義

悔い改めた罪人にとって、律法がその正義の一点も無効とされていないことは明らかであったが、贖罪の犠牲を通して、キリストの着せられた義を通して、彼は律法の前に義認されて立つのである。

キリストは不法者に下るはずの刑罰を負われた。そして、無力な希望のない罪人は、信仰を通して神性にあずかる者となり、世にある欲のために滅びることを免れるのである。キリストは、信じる罪人が罪を続けず不法から律法の従順へ向き直るならば、ご自分の完全と義を彼に着せてくださる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1899 年 5 月 23 日)

希望をもって、人性のうちに神に近づくことのおできになった唯一のお方は、神のひとり子であられた。罪深い悔い改めた人間が御父に受け入れられ、義の衣で覆われることができるように、キリストは地上に來られて、人類を贖うほどの価値のある捧げ物をおささげになった。カルバリー上でささげられた犠牲を通して、すべての人に恵みの聖化が提供されている。(手紙 67, 1902 年)

キリストを信じる信仰を通してのみ、罪人は自分にキリストの義を着せられ、また「彼にあつて神の義と」されることができる。わたしたちの罪はキリストの上に置かれ、キリストのうちに罰せられ、キリストによって取り除かれた。それはこのお方の義が、肉によらず、霊によって歩くわたしたちに著せられるためであつた。罪はわたしたちのために、このお方の勘定に置かれたにもかかわらず、このお方は完全に罪のないお方であり続けた。」(サインズ・オブ・タイムズ 1895 年 5 月 30 日)

主は十字架、しかも屈辱の十字架上で、十分に完全な犠牲を捧げられた。それは人が偉大にして尊いご自分の義という賜物のうちに完全になるためであつた。わたしたちには、神が恵みの新しい契約という絆のうちに無限の愛のこのお方の大きなみ心に密接に結びつけてくださるという神の誓いがある。自分の救いのために支払ったり、それを稼いだりしようとする自分の希望を捨て、価値なく罪

深いありのままの姿でイエスのみ許へ行き、律法の不法者を許してくださるという神の誓いの言葉をつかんで嘆願し、自分たちの罪を告白し、許しを求めてこのお方の功績の上に落ちるすべての人は、十分に無償な救いを見出すのである。」(手紙 148, 1987 年)

XI. 贖いの代価はカルバリーで完全に支払われた

キリストによって支払われた贖い代—十字架上の贖罪—は、常に彼らの前にある。(教会への証 5 卷 190)

カルバリーの十字架上で、このお方は人類の贖い代を支払われた。こうしてこのお方は、偽りによって神の統治に敵対して進み、人間の墮落を生じさせた者、さらにこうして神の王国の忠実な臣民だと呼ばれるすべての権利を放棄した大欺瞞者の手から捕虜を救い出す権利を獲得された。

サタンは自分の捕虜を行かせるのを拒んだ。彼は彼らが自分の嘘を信じたがゆえに、自分の臣民として彼らを捕らえた。彼はこうして、彼らの看守となった。しかし、彼には彼らのための代価が支払われることを要求する権利はなかった。なぜなら、彼は合法的に獲得して所有権を得たのではなく、偽りの申し立ての下で行ったからである。

神は債権者として、人間の贖いのために、どのような備えでもなす権利を持っておられた。正義はしかるべき代価が支払われることを要求した。神の御子が、この代価を支払うことのできる唯一のお方であつた。このお方は自ら進んでこの地上に来られ、アダムが倒れた地を渡られた。このお方は失われた人類の贖い主として、ずるがしこい敵に打ち勝つために、また、その正しいことへの揺るがない忠誠によって、このお方はご自分を自分の救い主として受け入れるすべての人を救うために来られた。(手紙 20, 1903 年)

キリストだけが人の救出のメッセージを担うことがおできになった。このお方は十分に完全な贖い代を携えて来られた。このお方は墮落した人類の手の届くところに、命と不死をもたらすために来られた。命の与え主として、このお方はわたしたちの性質を取られ、こうしてご自分が神のご品性を表し、ご自分を受け入れるすべての人にご自分のかたちを押すことができるようになされた。このお方はご自分の無限の犠牲を通して、神が回復された人類の誉れを受けることがで

きるように人となられた。……贖いの科学は天のように高く、その価値は無限である。この真理は非常に広く、非常に深く、非常に高く、それを別にしては地上の最高の賢人たちのあらゆる知恵も無に帰してしまう。神の知識に比べたら、あらゆる人間の知識はもみ殻のようである。そして救いの道はただ神によってのみ知らされることができるのである。(原稿 69, 1897 年)

神とキリストが罪人を救うためになしえることは、みななされた。不法は全世界を危険の中に、死の宣告の下に置いた。しかし、天では次の声が聞かれた、わたしは贖い代を得た、と。イエス・キリスト、罪を知らないお方が墮落した人類のために罪となられた。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」。キリストは贖い代としてご自身を捧げられた。このお方はご自分の王衣を脱がれた。このお方はご自分の王冠をわきへおき、ご自分の神性に人性をまとい、全天を指揮する高い地位から降りてこられたが、これはご自分が人類のあらゆる弱さを担い、あらゆる誘惑に耐えることができるためであった。(手紙 22, 1900 年)

信仰によってわたしは生きる

The Faith I Live By



5月 「改心と新しい生活」

罪に対する真の悲しみ

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ち返りなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、」(使徒行伝 3:19, 20)

神のあわれみをうける条件は簡単で、しかも正しく合理的である。神は、わたしたちの罪がゆるされるには、なにか面倒なことをしなければならないとは要求なさらない。長途の巡礼の旅に上ったり、痛々しい苦行をしたりして、天の神に自分がよく思われようと思ったり、罪の償いをしようとしなくてもよいのである。ただ罪を言い表して、これを離れるものはあわれみをうけるのである。(キリストへの道 45)

悔い改めとは罪を悲しむことと罪を離れることを含む。人は罪の恐ろしさを知るまでは罪を捨てるものではない。心の中で全く罪から離れなければ生活にほんとうの変化は起らないのである。(同上 22)

神の栄光のただ一筋でも、あるいはキリストの純潔のただ一ひらめきでも、人の心に照りこむとき、心の汚れの一つ一つが痛々しいまでに、はっきりと見せられ、人の性質の欠点、欠陥が余すところなく示されるのである。それは汚れた欲望、不誠実、汚れたくちびるなどをはっきりと見せる。罪人の目には、神の律法を無視した不誠実な行いが、はっきりと見せられ、人の心を探る神のみたまに打たれ苦しめられる。(同上 32, 33)

悔い改めた者の涙は、聖潔という日光に先立つ雨のしずくに過ぎない。この悲しみは、魂の中の生きた泉となるよろこびの先触れである。「わたしの声に聞き従わなかったことを言いあらわせと、主は言われる。」「わたしは怒りの顔をあなたがたに向けない、わたしはいつくしみ深い者である。」「シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて……さんびの衣を与えさせるためである。こうして、彼らは義のかしの木となえられ、主がその栄光をあらわすために植えられた者となえられる」(エレミヤ 3:13,12; イザヤ 61:3)。(各時代の希望中巻 5)

真心からの告白が必要不可欠

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神〔彼〕は真実で正しい方であるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちを清めてくださる。」(ヨハネ第一 1:9)

使徒ヤコブは、「互いに罪を告白し合い、また、いやされるように互いのために祈りなさい」(ヤコブ 5:16)と言っている。神のほか罪をゆるすことはできないから、罪は神に告白しなければならない。そして、あやまちは互いに言い表わすのである。もし友人や隣人をつまずかせたならば、自分は悪かったとこれを認めてあやまるのである。そして、これをこそよくゆるすはその人の義務である。そうしたあとで神のゆるしを求めなさい。と言うのはあなたがぎずつけた兄弟は神のものであるから、かれをぎずつけたことは、かれの創造主……に罪を犯したことになるからである。……

真の告白はつねに、はっきり自分の犯した罪そのものを言い表わすのである。神だけに告白すべきものもあるであろう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないものもあるであろう。あるいは公のものであれば、公に告白しなければならないこともあるであろう。いずれにせよ、告白はすべてはつきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばならない。(キリストへの道 45～48)

非常に多くの告白が、人の聞いている所で決して言い表わしてはならないものである。なぜなら、その結果は限られた人間の判断が予想しないものだからである。……神の御霊をたえず吹き込まれていない限り、正しく判断することのできない有限で誤りがちな人間に心の奥底を打ち明けるよりは、わたしたちがただイエスにのみ、心の密かな生来の墮落を告白する方が、神はもっと栄光をお受けになる。神だけがお聞きになるべき話を、人の耳に入れてはならない。(教会への証 5 巻 645)

心の奥底から湧き出てきた告白は、限りないあわれみを持たれる神へ通じるのである。(キリストへの道 47)

あなたがたの罪は山のようになっているかもしれないが、十字架につけられ、よみがえられた救い主のいさおしにすがって、へりくだり、罪を告白するならば、神はあなたがたをゆるし、あらゆる不義から清めてくださる。神は神のおきてに全く一致するよう要求なさっている。このおきては、もつときよくなれ、もつときよくなれと語りかける神のみ声のこだまである。キリストの恵みに満たされるように望みなさい。(患難から栄光へ下巻 270)

許しの意味

「だれかあなたのように不義をゆるし、その嗣業の残れる者のために、とがを見過ごされる神があるか。神はいつくしみを喜ばれるので、その怒りを長く保たず」(ミカ 7:18)

神の許しは、罪の宣告からわたしたちを解放する法的行為であるばかりではない。それは罪の許しであるだけでなく、わたしたちを罪から救うことである。心を変えるものは、あふれでる贖罪的爱である。ダビデは、「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えて下さい。」と言った時、許しということを正しく理解していた(詩篇 51:10)。(祝福の山 143)

立って、あなたの天の父に帰りなさい。神は、遠くからあなたを迎えてくださる。あなたが悔い改めて、一步神に向かって進むならば、神は、永遠の愛の腕にあなたを抱こうと走りよられるのである。神の耳は、悔い改めた魂の叫びを聞くために開かれている。人の心が、まず神を求め出したその瞬間を、神は、ご存知である。どのようにためらいがちの祈りであっても、どのようなひそかな涙であっても、どのような弱い切なる心の願いであっても、必ず神の霊がそれを迎えに出られるのである。キリストから与えられる恵みは、祈りが口から出て、心の願いが述べられるその以前にすでに、人の心に働いている恵みに合流する。

天の父は、罪に汚れた衣をあなたからぬがせてくださる。ゼカリヤの美しい比喩的予言の中で、大祭司ヨシュアが汚れた衣を着て、主の使いの前に立ち、罪人を代表している。そして、主からみことばがあった。『彼の汚れた衣を脱がせなさい』。またヨシュアに向かって言った、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう。』……そこで清い帽子を頭にかぶらせ、衣を彼に着せた(ゼカリヤ 3:4,5)。そのように神は、あなたに「救いの衣」を着せ、「義の上衣」をまわらせて下さる(イザヤ 61:10)。「たとい彼らは羊のおりの中にとどまるとも。はとの翼は、しろがねをもっておおわれ、その羽はきらめくこがねをもっておおわれる」(詩篇 68:13)。

神は、あなたを祝宴の家に連れて行き、あなたの上に愛の旗をひるがえてくださる(雅歌 2:4)。「あなたがもし、わたしの道に歩」むならば、「ここに立っている者どもの中に行き来するを得させる」—神のみ座のまわりの聖天使たちの間にさえ立たせると、神は言われるのである(ゼカリヤ 3:7)。(キリストの実物教訓 186, 187)

神のむすこ娘たち

「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ 1:12)

真理が心に受け入れられ、人が純潔にされ清められるのは、イエス・キリストを信じる信仰を通してである。……彼は魂のうちに変わらぬ原則を持ち、その原則は彼が誘惑に打ち勝つことを可能にする。「すべて彼におる者は、罪を犯さない」(ヨハネ第一 3:6)。神はキリストのうちにある魂が誘惑にさらされているときに、彼を守る力を持っておられる。……

信心を告白するだけでは価値がない。キリストのうちにある者がクリスチャンである。……神の思いがその人の思いにならないかぎり、自分を清めようとするあらゆる努力は無意味である。なぜなら神の知識を通してでなければ、人を向上させることは不可能だからである。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 951)

あなたが自問する必要がある質問は、「わたしはクリスチャンであるか」である。クリスチャンであるということは、多くの人が理解していることをはるかに越える。それは単にその名が教会の名簿にのっている以上のことを意味する。それはキリストに連なることを意味する。それは単純な信仰を持ち、揺らぐことなく神へより頼むことである。それは、神のいとし子のみ名と功績を通して、あなたの天父を子供のように信頼することである。あなたは、神の戒めが神の教訓であり、このお方のご品性の写しであって、神のご品性と同じように変更することができないがゆえに、その戒めを守ることを愛するだろうか。あなたはエホバの律法を尊び、愛するだろうか。(ユース・インストラクター 1893 年 5 月 18 日)

クリスチャンは神のむすこ娘として、福音の中に示されている高い理想に到達するように努力しなければならない。彼らは完全より低いもので満足してはならない。(青年への使命 73)

キリストはご自分を受け入れる人に神の子となる力をお与えになる。それはついに神が彼らをご自分の子として受け入れ、永遠にご自分と共に住まわせるためである。もしこの世の生涯を通して人間が神に忠誠であれば、その人たちはついに、「み顔を仰ぎ見るのである。彼らの顔には、み名がしるされている」(黙示録 22:4)。天における楽しみは、神のみ顔を見ることにほかならない。キリストの恵みによって救われた罪人にとって神のみ顔を見上げ、父として神を知ること以上に大きな喜びがあるだろうか。(ミストリー・オブ・ヒーリング 395, 396)

わたしたちが許すように許される

「あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。」(マタイ 7:2)

イエスは、わたしたちが他の人々を許す時にのみ、自分が神からの許しを受けることができるとお教えになっておられる。わたしたちを神のもとに引きつけるのは神の愛であり、その愛がわたしたちの心に触れる時、必ず兄弟に対する愛が生み出されるのである。

主の祈りを言い終わったあとで、イエスは、「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう」と言われた(マタイ 6:14,15)。許さない者は、神のあわれみを受ける唯一の通路を遮断しているのである。わたしたちを傷つけた者が、その悪を告白しないならば、彼らを許さなくともよいと考えてはならない。悔い改めと告白によって心を低くすることは、疑いなく彼らのなすべきことである。しかし、わたしたちは、彼らがあやまちを告白してもしなくても、わたしたちに対して罪を犯した者に対してあわれみの心を持たなければならない。(祝福の山 142, 143)

人をゆるさない精神を正しいと認めることはできない。他の人に対して無慈悲なものは、その人自身が神のゆるしのめぐみを受けていない証拠である。神のゆるしによって、あやまちを犯した者の心は無限の愛なる神の大いなるみ心に近くひきよせられる。神のあわれみが潮のように、罪人の心に流れ込み、又その人から他の人々の心に流れこむのである。……

わたしたちは自分がゆるすからゆるされるのではない。わたしたちがゆるすようにゆるされるのである。すべてのゆるしは、なんのいさおもなくして得られる神の愛に基づいている。しかし他の人々に対するわたしたちの態度は、わたしたちがその愛を自分のものにしたかどうかを示すのである。キリストが、「あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ……るであろう」と言われたのは、そのためである(マタイ 7:2)。(キリストの実物教訓 226, 227)

神のいのちなるキリストをあなたのうちに住まわせ、あなたを通して天来の愛をあらわし、希望のない者に希望を、罪にうちひしがれた心に天の平和を与えるようにしよう。わたしたちが神のもとに来る時、まずわたしたちが会おう条件は、自分が神からあわれみを受けたのであるから、他の人々に神の恵みをあらわすために自己をささげることである。(祝福の山 144)

返還が要求される

「すなわちその悪人が質物を返し、奪った物を戻し、命の定めに進み、悪を行わないならば、彼は必ず生きる。決して死なない。」(エゼキエル 33:15)

改革の伴わない悔い改めは、真正なものではない。……

クリスチャンは、その実業生活において、主ならこのように事業を経営されるであろうという方法を世にあらわすのである。すべての取引において、彼は神が自分の教師であることを明らかにする。「主に聖なる者」ということが、日記帳にも元帳にも証書にも領収書にも為替手形にも書かれている(出エジプト 28:36)。キリストに従う者であることを告白しながら、不正なやり方で取引する者は、聖にして正しく、あわれみある神のご品性に反するまちがったあかしをたてているのである。……

もしわれわれが商売上の不正な取引で他人に損害を与えたり、商売上のごまかしをやったり、誰かをだましたりしたなら、たとえそれが法律を犯すことではなくても、われわれは、そのまちがいを告白して力の及ぶかぎり償いをすべきである。われわれは取ったものを返すばかりでなく、われわれがそれを所有していた間に正しく賢明に用いられたら蓄積されたはずの分まですべて返すのが当然である。(各時代の希望中巻 377, 378)

何か兄弟からだまし取ったり傷つけたりしたなら、そのつぐないをしなければならぬ。もし知らずに偽ったあかしをたてたり兄弟のことを誤って伝えたり、あるいは何らかの点で兄弟の感化力をそこねたら、それを話した人々の所へ行って、誤って述べたために兄弟を中傷することになったことばをすべて取り消すべきである。(祝福の山 73)

恩恵期間が閉じるのはそう先のことではない。もしあなたが今、主に忠実に仕えないならば、あなたは自分の不忠実な取引の記録にどのように直面するつもりであろうか。……もしあなたが神と正直に取引することを拒んだのであれば、わたしはあなたが自分の不足を考え、そして可能であれば返還するよう懇願する。これができないならば、心を低くして悔い改め、神がキリストによってあなたの大きな負債を赦してくださるように祈りなさい。今からクリスチャンらしく行動し始めなさい。主の所有をお返しすることができなかったことに対して言い訳をしてはならない。今……過ちを正すのに遅くならないうちに、今日という日のうちに、神のみ声を聞いたならば、あなたの心をかたくなにしてはならない。(執事への勧告 99, 100)

ありのままの姿で来なさい

「エチオピアびとは、その皮膚を変えることができようか。ひょうはその斑点を変えることができようか。もしそれができるならば、悪に慣れたあなたがたも、善を行うことができる。」(エレミヤ 13:23)

神はどの罪もみな同じであるとは思われない。人間と同じようにやはり大小、軽重の区別をなさる。けれども、人の目にどんなに小さく見える悪事でも、神の前には決して小さい罪というものはない。人の判断はかたよって不完全なものであるが、神はすべてをそのあるがままにお量りになる。たとえば飲酒家は軽蔑されて、とても天国には行かれまいと言われるがその反面、高慢、我欲、貪欲などは責められず、見過ごしにされがちである。しかし神は、こうした罪をとくにきらいたもうのである。というのは、これは神のあわれみ深い品性に反し、墮落しない宇宙に満ちている無私の愛の精神に反するからである。なにか大きい罪を犯したものは自ら恥じ入り、卑しさを感じ、キリストの恵みの必要を感じるが、高慢な者はなんの必要も感じないため、キリストに対して心を閉じてしまい、キリストがこられて、与えようとなさる無限の祝福を受けることができないのである。……

もし自らの罪深きことに気づいたならば、自分でよくしようなどと思って待つてはならない。自分はキリストの許に行くにはふさわしくない、と思っている人がなんと多いことであろう。自分の力でよくなれるとでも思っているのであろうか。……わたしたちを助けて下さるのは神のみである。もっと強い確信、もっといい機会、あるいは、もっときよめられた性質を持つまでなどと待つてはならない。わたしたちは自分の力ではなにもできないのであるから、ありのままでキリストに行くほかはないのである。(キリストへの道 34～36)

ただちに、自らをキリストに明け渡しなさい。このお方だけが、その恵みの力によってあなたを滅びから贖い出すことがおできになる。このお方だけが、あなたの道德力と知力に健康状態をもたらすことがおできになる。あなたの心は神の愛によって温められ、あなたの理解力は明晰にまた成熟したものとなり、あなたの良心は光に照らされ、生き返らせられ、純潔なものにせられ、あなたの意志はまっすぐ正しく、聖化されて、神の御霊の支配に従うようになる。あなたは自ら選んだとおりの者となることができる。もしあなたが今、回れ右をして、悪をなすことを止め、善をなすことを学ばなら、そのときあなたは本当に幸福になる。あなたは人生の戦いにおいて勝利し、この生涯よりもはるかにまざる生涯において、栄光と誉れにまで達するのである。(教会への証 2巻 564,565)

個人的な許し

「神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのとがをぬぐい去ってください。」(詩篇 51:1)

わたしたちは、すべての者が過ちを犯すことを覚えていなければならない。長年の経験を持っている男女でさえも、時に過ちを犯す。しかし、神は、その過ちのゆえに彼らをお見捨てになることはない。神は過ちをおかしているすべてのアダムのむすこ娘たちに、もう一度機会をお与えになる。(サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 5 月 21 日)

イエスはわたしたちが、あるがままの、罪深い無力な依存する者としてご自分の許へくることをお喜びになる。わたしたちは自分の弱さ、愚かさ、罪深さをみなもったまま悔いの涙をもって主の足元にひざまずいてよいのである。主は愛のみの手のうちにわたしたちをいだき、傷をつつみ、すべての汚れからきよめることをご自身のほまれとなさる。

多くの人があやまったのはこの点であって、イエスは個人的に、一人ひとりにゆるしをお与えになるということを信じないのである。彼らは神をそのみ言葉どおりに信じない。しかし、だれでも条件に従うならば、いかなる罪のゆるしも価なく与えられることを、はっきり知ることができるのである。神のみ約束は、自分のためではないなどという疑いは捨てねばならない。このみ約束は、悔い改める罪人一人ひとりのためである。キリストが備えておられる能力と恵みは、御使いによって、信ずる魂一人ひとりに与えられる。どんなに罪深いからと言っても、彼らのために死なれたイエスから能力と純潔と義とを受けることができないという人はない。イエスは罪に染んで汚れた衣を脱がせて、義の白い衣を着せようと待っておられる。死ぬることなく、生きよと招いておいでになるのである。……

あわれな罪人が帰りたいと思い、罪を捨てたいと願っているのに主は彼らが罪を悔いて主の足元に来るのを拒まれると考えられるであろうか。決してそのようなことを考えてはならない。天の父はそのような方であると考えることほど、魂を傷つけるものはない。……

全心をささげて、イエスのもとに行こう。そうすれば主の祝福を自分のものとするのできるのである。(キリストへの道 68～72)

ご自身の贖罪によって、人のために道徳力という無限の宝庫をお備えになったお方は、必ずこの力を彼らのためにお使いになる。(ビュー・アンド・ワールド 1900 年 10 月 30 日)

キリストとの結合

「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながって
いよう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことがで
きないように、あなたがたもわたしにつながってなければ実を結ぶことができな
い。」(ヨハネ 15:4)

人はだれでも、自分自身の行為によって、キリストの精神を心に宿すことやこの
お方の模範に従うことを拒んでこのお方を追い出してしまうか、それとも、自己否
定と信仰と従順によって、キリストとの個人的結合に入るかのいずれかである。
わたしたちは、キリストがまずわたしたちを選んで下さったがゆえに、各々自分でこ
のお方を選ばなければならない。キリストとのこの結合は、生来このお方に敵対し
ていた者によって形成されなければならない。それは高慢な心が入るべき、完全
な依存関係である。これは緊密な働きであって、キリストに従う者であると告白す
る多くの者がそれについて何も知らない。彼らは名目的に救い主を受け入れるが、
自分たちの心の唯一の支配者としては受け入れない。(教会への証 5 巻 46, 47)

人類の悪への傾向に打ち勝つのは困難である。戦いは長引き、うんざりさせ
る。闘争のうちにある魂はみな、この戦いがいかに厳しく激しいものであるかを
知っている。恵みのうちに成長することはみな困難を伴う。なぜなら、世の標準
と行動原理が絶えず、魂と神の聖なる標準との間に介入するからである。主はご
自分の偉大な道徳的標準の基礎をなす原則を実践することによって、わたしたち
を向上させ、高尚にし、純潔にしようと望んでおられる。この道徳的標準が、最
後の大審判の日にすべての者の品性を試すのである。(レ・ビュー・アンド・ワールド 1884
年 12 月 16 日)

わたしたちは、自己に対して勝利を得、情と欲とを十字架につけなければならない。
それから、キリストと魂の結合が始まる。……この結合が形づくられた後、
それは絶えざる熱心な骨の折れる努力によってのみ保たれる。……

どのクリスチャンも、絶えず警戒し、サタンが進入口を見つけるような魂のあ
らゆる通路を見張っていなければならない。彼は神の助けを求めて祈らなければ
ならないが、それと同時に、断固として罪へのあらゆる傾向に抵抗しなければならない。
彼は勇気と信仰と忍耐強い労苦によって、勝利者となることができる。
しかし、勝利を得るには、キリストが自分のうちに、また自分がキリストのうちに
宿っていなければならないことを覚えていなさい。……わたしたちが聖霊の実を
結ぶことができるのは、キリストとの個人的な結合によってであり、日々、時々刻々、
キリストと交わることによってのみである。(教会への証 5 巻 47, 48)

心の貧しい者のための助け

「心の貧しい人たちは、さいわいである。天国は彼らのものである。」(マタイ 5:3)

心の貧しさを深く感じ、自分のうちに何もよいものがないと感じるすべての者は、イエスを見上げることによって義と力を見出すことができる。(祝福の山 10)

「神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられませぬ」(詩篇 51:17)。人は最高の意味において、イエスを信じる者となることができる前に、自分自身をむなしくしなければならぬ。自我が放棄されるとき、主はその人を新しい人間にすることがおできになる。(各時代の希望上巻 358)

人間が、聖で憐れみ深い神に対して罪を犯したときに、心から悔い改めて涙と悲しみのうちに自分の誤りを告白することほど、人間にとって気高い行為はない。神はこのことを人間にお求めになる。神は悔いにくずおれた心以下のものをお受けにならない。(国と指導者下巻 55)

高慢な心は、自分の行為によって救いを得ようと努力する。しかし天国にはいる権利書と資格はキリストの義のうちにある。自分自身の弱さを自覚し、すべてうぬぼれを取り去って、自分自身を神の支配にまかせるまでは、主は、その人の回復のために何もすることがおできにならない。自分自身を神にまかせるときに、彼は神が与えようと待っておられる賜物を受けることができる。必要を感じている魂にはどんなものも与えられないものはない。彼は、「すべての満ちみちた徳」の宿っている神に、何の制限もなく近づくことができる(コロサイ 1:19)。(各時代の希望中巻 4)

わたしたちが過去の罪の赦しを得られない唯一の理由は、わたしたちが自己の高慢な心を低くし、必要な条件に応じようとしないからである。(教会への証 5巻 636)

神はわたしたちに対して情け深い。なぜなら、このお方はわたしたちの弱さと誘惑をご存知だからである。わたしたちが砕けた心と悔いにくずおれた心とをもってご自分の許へ来るとき、神はわたしたちの悔い改めを受け入れ、わたしたちがこのお方の力に頼って和らぎをなすとき、ご自分と和らぐことができると約束してくださる。神が情け深いお方であることに、わたしたちはどれほど感謝と喜びを感じるべきであろうか。(教会への証 3巻 239,240)

神の御目に最も喜んで受け入れられる捧げ物は、自己を否定し、十字架を負ってイエスに従うことによって、謙遜になった心である。(伝道 510)

心の変化が必要

「イエスは答えて言われた、『よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない。』」（ヨハネ 3:3）

ニコデモはユダヤ国民の中で高い信任の地位を占めていた。……他の人たちと同じに、彼もイエスの教えに心を動かされていた。……救い主の口から語られた教訓が、彼に強い印象を与えたので、彼はそうした素晴らしい真理についてもっと学びたいと望んだ。……

ニコデモは、主と議論しようと思ってやってきたのであったが、イエスは真理の根本原則をはっきりとお示しになった。主はニコデモにこう言われた、あなたにとって必要なのは、理論的な知識よりもむしろ霊的な生まれかわりである。あなたは、好奇心を満足させるより、新しい心を持つ必要がある。あなたは天の事物を理解できる前に上からの新しいいのちを受けなくてはならない。（各時代の希望上巻 197～200）

新生によって表わされている心の変化は、聖霊の効果的な働きによってのみもたらされる。……誇りと自己愛は神の御霊に抵抗する。生まれながらの魂の傾向はみな、自尊と誇りからキリストの柔和と心の低さに変わることに反対する。しかし、もしわたしたちが永遠の命への道を歩もうと思うならば、わたしたちは自己のささやきに耳を傾けてはならない。謙遜と悔悟のうちにわたしたちは天父に向かって、「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えて下さい」（詩篇 51:10）と嘆願しなければならない。わたしたちが神の光を受けて、天の知的存在者に協力するとき、キリストの力によって罪の汚れから自由にされて、「新しく生まれる」のである。（ユース・インストラクター 1897 年 9 月 9 日）

聖霊の強力な力から人が品性を完全に改変し、キリスト・イエスにある新しい人として造り変える。……言葉と行いは救い主の愛を言い表わす。そこには最高の地位を求めて争うことはない。自己は放棄され、イエスのみ名がすべての言行動作にしろされる。（ビュ・アンド・ヘルド 1902 年 6 月 10 日）

このように人が新たにされることこそ、最大の奇跡ではないだろうか。信仰によって神の力をつかむ者にできないことがあろうか。（教会への証 9 巻 152）

謙遜な者への祝福

「すると、イエスは幼子と呼ばせ、彼らの真ん中に立たせて言われた、『よく聞きなさい。心をいれかえて幼子のようにならなければ、天国に入ることはできないであろう。』」(マタイ 18:2, 3)

無力な罪人は自分の唯一の望みとしてキリストにすがりつかなければならない。彼が一瞬でもキリストを手放すなら、自分の魂も他の人の魂も危険にさらすことになる。生きた信仰を働かせるときにのみ、わたしたちは安全である。しかし、何か知っている罪を犯したり、家庭や社会において知っている義務を怠るなら、信仰を破壊し、魂を神から切り離すことになる。

うぬぼれの精神ほど、神の忌み嫌われるものはない。ペテロの生涯のうちに、キリストに従うと告白するすべての者への警告となるべき悲しい教訓がある。救い主はペテロに近づきつつあった危険をはっきりと警告なさったが、自己過信のでしゃばりな彼は自分の忠誠と熱心を主張し、主の行かれる所は牢獄であろうと死であろうと喜んでついて行くと断言した。彼らの指導者であられる主の屈辱によって嵐が弟子たちの上に吹き荒れたとき、試みがペテロの上に臨んだ。靈感のペンによってたどられた言葉は実に痛ましいものである。「その時、弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った」(マタイ 26:56)。熱心で熱烈な自信のあるペテロは繰り返し自分の主を拒んだ。彼は後にはげしく悔い改めたが、この経験によって、すべての者が自信と自己義に対して訓戒を受けるべきである。(エレン・G. 初稿原稿1, 1878年)

幼子のように自己を謙遜にする者は、神によって教えられる人である。主は決していかなる人の才能にも頼ることをなさらない。なぜなら主があらゆる完全な賜物の源であられるからである。最も謙遜な者こそ、神を愛し畏れるならば、天来の賜物の所有者である。主はそのような人をお用いになることができる。なぜなら、彼は自己の標準に従って自分勝手に働こうとしないからである。彼は型を台無しにするのではないかと恐れおののきながら働く。彼の生活はキリストの生涯の表現である。(手紙 9, 1899年)

もしわたしたちがキリストの精神を持ちたいと思うなら、絶えず、柔和と謙遜を大切にしなければならない。(エレン・G. 初稿原稿 1, 1878年)

全く新しい生活

「すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、心の深みまで新たにされて、真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。」(エペソ 4:22～24)

改心はほとんどの者がありがたく思わない働きである。世的な、罪を愛する思いを改変し、その思いが言葉で表わせないほどのキリストの愛とその恵みの美しさと神の卓越さを理解するように導き、それによって魂に神の愛が吹き込まれ、天の奥義に心が捕らえるということは、決してささいな事ではない。彼がこれらの事柄を理解するとき、彼にとって以前の生活は実にうんざりさせる憎むべきものとしてあらわれる。彼は罪を憎み、神のみ前に心を砕いて、キリストを魂の命、喜びとしていただく。彼は今までの楽しみを捨てる。彼には新しい思い、新しい愛情、新しい関心、新しい意志があり、彼の悲しみと願いと愛はことごとく新しくされる。……かつては何の魅力もなかった天国を、今はその富と栄光のうちに見る。そして彼はそれを彼の未来の家郷、すなわちご自分の尊い血で自分を贖ってくださったお方を見、愛し、賛美する場所として考える。かつてはうんざりするように見えた聖潔の働きは、今は彼の喜びとなる。気乗りせず、関心のなかった神の御言を、今は自分の研究主題、相談者として選ぶ。それは神から彼に書かれた手紙として、永遠のお方の銘を帯びている。彼の思想、彼の言葉と行いは、この規則に沿って試される。彼はみ言葉の中にある命令と警告に恐れおののくと同時に、その約束をつかみ、それを自分にあてはめて、自分の魂を強める。(教会への証 2 巻 294, 295)

キリストの改変する恵みが心にのぞむとき、罪人は神が自分のために備えておられた大いなる救いをあまりにも長い間なおざりにしてきたため、義憤が魂を捕らえるようになる。そのとき彼は自分自身を、すなわち魂と心と体を神に従わせ、神から与えてくださった恵みによって、サタンとの交際から身を引く。(青年への使命 276)

すべての者は改心の段階を理解する必要がある。改変した生活のうちに、その実が見られる。(Eli・G・初稿原稿 56, 1900 年)

生活の聖潔

「すべての人と相和し、また、自ら清くなるように努めなさい。清くならなければ、だれも主を見ることはできない。」(ヘブル 12:14)

聖潔を主張する人はだれひとり本当に聖なる者ではない。天の書に、聖なるものと登録される人は、その事実に気付かない。そして自分の善を誇ることなど考えもしない。(サインズ・オブ・タイムズ 1885年2月26日)

異常な状況のもとで霊的な恍惚状態をあらわしたからといって、その人がクリスチャンであるという確実な証拠にはならない。聖潔は忘我の境地ではない。それは意志を全く神に従わすことである。それは神のみ口からでる一つ一つのことで生きることであり、天の父なる神のみこころをなすことである。光のうちにいるときと同様に、試練のときにも暗黒のときにも神により頼むことである。また、目でみて歩くのではなく、信仰によって歩むことである。それは少しも疑わずに確信をもって神に頼み、神の愛に安らぐことである。(患難から栄光へ上巻 47)

だれも全能にはなり得ないが、すべての者が肉と霊の汚れから自分を清めて、主を畏れ、聖潔を完成することはできる。神はすべての魂が純潔で聖であるように要求しておられる。わたしたちは先天的な悪への傾向を持っている。これは自己の一部であって、だれもそれを持ち歩く必要はない。利己主義を甘やかすのは人類の弱点である。なぜなら、それは品性の生来の性質だからである。しかし、利己心をすべて捨て去り、自己を十字架につけないかぎり、わたしたちは神が聖なるものであるように聖なるものとなることは決してできない。人には邪推をする傾向があり、それは場合によってはまたたくまに大きくなる。この特質にふけるなら、品性を損ない、魂を破滅させる。(手紙 9, 1899年)

神はすべてのことに道徳上の完成を要求しておられる。光と機会とを与えられた者は、神の管理者として完全を目指すべきである。そして、悪に対する先天的後天的傾向に合わせるために義の標準を下げるようなことは、決して、決してあってはならない。キリストはわたしたち人間の性質をお取りになり、わたしたちの生涯を送られ、わたしたちもご自分のようになることができることをお示しになった。……わたしたちは神が聖なるものであられるように、聖なるものとなるべきである。そしてわたしたちがこの言葉の意味を十分に理解し、神のみわざをなすため、またこのお方が聖なるものであられるようにわたしたちも聖なるものとなるために心を定めるとき、わたしたちは、キリスト・イエスの内にわたしたち個人個人のために定められた標準に近づく。(同上)

御霊によって強くされる

「どうか父が、その栄光の富に従い、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さい。」(エペソ 3:16)

イエスは「なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」(マルコ 11:24)と仰せになったが、このみ約束には条件が一つある。それは神のみ旨に従って祈るということである。けれども、わたしたちの罪をきよめ、神の子らとしてきよい生活を送らせようとなさるのは神のみこころである。であるから、これらの祝福を願い求め、それを受けたと信じて神に感謝してもよいのである。イエスのもとにきてきよめられ、恥ずるところなくおきての前に立つことができるのはわたしたちの特権である。……

神を信ずるこの簡単な行為によって、聖霊はわたしたちの心に新しいいのちをお与えになる。わたしたちは神の家族の子供として生まれたのである。であるから、神はみ子を愛したもうと同様にわたしたちを愛してくださるのである。

さて、あなたは自分をキリストにささげたのであるから、退いたり、また自分を取りもどしたりしてはならない。ただ日ごとに「わたしはキリストのものです。わたしは自分をキリストにささげました」と言って、聖霊を与えられ、このお方の恵みによってささえられるよう祈ろう。おのれを神にささげ、神を信じる時神の子となるのであるから、そのように神にあって生活しなければならない。使徒パウロも、「あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい」(コロサイ 2:6)と言っている。

世には、自分たちは試験されているのであって、心を改めたことを証拠だてなければ、神の祝福をいただくことができないと考えている人々がいる。しかし今すぐにでも祝福を求めて受けることができる。神の恵み、キリストの霊を受けておのが弱きを補うのでなければ悪に抵抗することはできないのである。(キリストへの道 66～68)

神のために献身した働き人がどんな場所にしようと、御霊は共に住んでくださる。弟子たちに語られたことばは、同時にわれわれにも語られている。助け主は彼らのものであるばかりでなく、われわれのものでもある。どんな緊急の際でも、この世の憎しみのまっただ中にあっても、御霊は、もがき、格闘している魂を支える力をおさずけになる。また彼らの失敗や誤りに気づかせてくださる。悲しみや苦しみの中で、見通しは暗く、未来は難問題ばかりのように見えるとき、また、どうしようもない孤独感におそわれているとき、こうした時こそ、聖霊は信仰の祈りに答えて、心を慰めてくださるのである。(患難から栄光へ上巻 47)

品性の驚くべき変化

「しかしわたしは義にあって、み顔を見、目覚める時、(あなたのみかたちを持って目覚めるとき) みかたちを見て、満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15 英語訳)

イエスは、人間のうちに創造主のみかたちを回復するためにおいでになったのである。罪のために墮落した品性を新しく形づくることができるのはキリストよりほかにはない。主は人間の意思を支配していた悪霊を追い出すためにおいでになった。(各時代の希望上巻 28)

主イエスは、ご自分の慈悲と豊かな恵みとを示すことによって、人の心に実験をしておられる。主は人の心を驚くばかりに造りかえられるので、サタンはどんなに勝利を自慢しても、また神と神の統治の律法に対して、悪の軍勢をどんなに寄せ集めても、造りかえられた人々を自分の詭弁や欺瞞では攻め落とすことのできない砦として呆然と見ているだけである。彼らはサタンにとって理解のできない神秘である。人間と協力するように任命された力ある神の御使たちであるセラビムやケルビムは、かつて怒りの子であった人間がキリストの訓練を通して、神にかたどって品性を発達させ、神のむすこ娘になり、天の活動と喜びにおいて重要な役割を果たすのを、驚きと喜びをもって見つめている。(牧師への証 18)

彼らは苦難の炉で清められた。彼らはイエスのために、反対、憎悪、中傷に耐えた。彼らは、激しい争闘の中でこのお方に従った。彼らは、自己犠牲に耐え、苦い失望を経験した。彼らは自分自身の悲痛な経験によって罪の邪悪さを知り、その力、そのとが、その悲惨を知ったので、罪を嫌悪する。彼らは、自分達が罪から救い出されるために払われた無限の犠牲を悟るときに、おのずから心はへりくだり、墮落したことのない者たちには味わうことのできない感謝と賛美に、心が満たされるのである。彼らは、多く許されたゆえに、多く愛するのである。彼らは、キリストの苦難にともにあずかったことによって、彼の栄光にともにあずかるにふさわしい者とされるのである。(各時代の争闘下巻 431, 432)

キリストはご自分の苦しみとへりくだりと愛の報いとして、しみのない純潔と一点の影もない完全さのうちにあるご自分の民をご覧になる。キリストこそ、あらゆる栄光の輝き出る偉大な中心であられる。(牧師への証 18, 19)

わたしたちの主の模範

「すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえられたように、わたしたちもまた、新しい命に生きるためである。」(ローマ 6:4)

イエスは、ご自分のために、罪の告白としてバプテスマをお受けになったのではなかった。イエスはご自分を罪人と同じにごらんになって、われわれのとるべき手段をとられ、われわれのなすべきわざをされたのであった。バプテスマ後のイエスの苦難と忍耐の一生もまたわれわれの模範であった。(各時代の希望上巻 114)

人類のかしらとしてのキリストは、わたしたちに要求されているのと同じ段階を踏まれるのであった。このお方には罪はなかったが、罪を犯した人類の贖いのために要求されているすべてのことを成就なさることにおいて、わたしたちの模範であられた。このお方は全世界の罪を負われた。そのバプテスマは、悔い改めと信仰とによって赦される罪の世界全体を含むものであった。「ところが、わたしたちの救い主なる神の慈悲と博愛とが現れたとき、わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖霊は、わたしたちの救い主イエス・キリストを通して、わたしたちの上に豊かに注がれた。これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、み国をつぐ者となるためである。この言葉は確実である。わたしは、あなたがそれらのことを主張するのを願っている。それは神を信じている者たちが、努めて良いわざを励むことを心がけるようになるためである。これはよいことであって、人々の益となる」(テトス 3:4～8)。人間は再生の洗いによって、ふたたび神の恩寵にもどされた。洗いとはキリストの死のさまでキリストと共に水に沈められることであり、神の律法を犯したことを悔い改めるすべての者が、聖霊の働きを通して純潔にされ、清められることを示している。バプテスマは、聖霊によって新たにされることによる真の改心を示すものである。(エル・G・初什原稿 57, 1900 年)

バプテスマによって、キリストと共に葬られ、このお方の復活の様にひとしく復活させられた者は、新しい生活をするを誓ったのである。「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである」(コロサイ 3:1, 2)。(両親、教師、生徒への勧告 258)

「これはわたしの愛する子」

「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはとのように自分の上に下ってくるのを、ご覧になった。また天から声があって言った。『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』」(マタイ 3:16, 17)

イエスがバプテスマを頼まれると、ヨハネはおしとどめて「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか。」と叫んだ(マタイ 3:14)。イエスは、きっぱりとしかしやさしい威厳をもって、「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのはわれわれにふさわしいことである」と答えられた(マタイ 3:15)。そこでヨハネは譲歩して、救い主をヨルダン川に導き、水の下に沈めた。「そして水の中から上がられるとすぐ」イエスは「天が裂けて、聖霊がはとのように自分に下ってくるのを、ごらんになった」(マルコ 1:10)。……神のご臨在の荘厳さが会衆の上にとどまった。人々はだまってキリストをみつめていた。そのお姿は神のみ座をいつもとりまいている光を浴びていた。上を向かれたイエスのお顔は、これまで人の顔に見られたことのない栄光に輝いていた。開かれた天から、一つの声が下って「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」と言うのが聞こえた。(マタイ 3:17) ……

ヨルダン川で、イエスに語られた言葉は……全人類を含んでいる(マタイ 3:17)。神はわれわれの代表者としてのイエスに語られた。どんなに罪や欠点を持っていても、われわれは無価値なものとして捨てられることはない。「神は愛するみ子によってわたしたちを受け入れてくださった」(エペソ 1:6 英語訳)。キリストの上を下った栄光は、われわれに対する神の愛の保証である。……イエスの愛は人類をとりまき、最高の天に達した。開かれた門から救い主の頭上にさした光は、われわれが試みに抵抗するために助けを祈るとき、われわれの上にさすのである。イエスに語られたみ声が、信じている一人一人にむかって「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」と言われるのである。……

わたしたちの贖い主はどんな罪深い者にも、どんなに困っている者にも、またどんなにしえたげられ、あなどられている者にも道を開いておられるので、天父に近づくことができる。だれでもみな、イエスが備えに行かれた住居を我が家とすることができる。(各時代の希望上巻 114 ～ 118)

水と霊とから生まれる

「イエスは答えられた、『よくよくあなたがたに言うておく。だれでも、水と霊とから生まれなければ、神の国にはいることはできない。』（ヨハネ 3:5）

キリストがここに言うておられるのは、水のバプテスマのことと神のみたまによって心が新たにされることとであ……った。（各時代の希望上巻 201）

悔い改めと信仰とバプテスマとは改心に要求されている段階である。……クリスチャンがバプテスマの厳粛な儀式に身を委ねるとき、神は彼らのご自分に対する忠誠の契りを記録される。この契約は彼らの忠誠の誓いである。（伝道 306, 307）

キリストはバプテスマをその霊のみ国へ入るしるしとなさった。このお方はこのバプテスマを、御父と御子と聖霊の権威のもとに是認されることを望む者がみな応じなければならない明白な条件となさった。人が教会を家とすることができる前に、また神の霊的王国の門をくぐる前に、彼らは「主、我らの義」という神のみ名を受けなければならない（エレミヤ 23:6）。……父と子と聖霊の三重のみ名によってバプテスマを受ける者は、クリスチャン生涯に入るその時に、自分がサタンに仕えることをやめて、王家の一員、すなわち天の王の子となったことを公に宣言するのである。彼らは「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ……そして汚れたものに触れてはならない」との命令に従ったのである。そして彼らに「わたしは、あなたがたを受け入れ、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう」とのみ約束が成就する（コリント第二 6:17, 18）。（教会への証 6 巻 91）

その後、信者は、自分が神とキリストと聖霊とに捧げられたのだということを記憶しなければならない。彼はあらゆる世的な事柄を、この新しい関係に従属したものとしなければならない。……

バプテスマの時に結んだ霊的契約の義務は相互的なものである。人間が心を尽くして従順に自分の分を果たすとき、彼らは「主よ、イスラエルでは、あなたが神であること……を今日知らせてください」と祈る権利がある。あなたが父と子と聖霊とのみ名によってバプテスマを受けたという事実は、あなたがこの方々の助けを求めるならば、あらゆる危機にこの御力があなたを助けてくださるという保証である。（伝道 316）

キリストの死とよみがえりにあずかるバプテスマ

「それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。」(ローマ 6:3)

バプテスマのおごそかな儀式にあずかった者は、キリストが神の右に座しておられる上なる天にあるものを求めることを、また罪人の救いのために熱心に働くことを誓ったはずである。神はご自分のみ名を持っている者に向かって「あなたは、わが子の死によって贖われた能力をどのように使っているか」とお尋ねになる。あなたがたは、靈的理解の一層高い所に到達するために全力を尽くしているだろうか。あなたがたは自分の関心と行動を、永遠の重大な要求と一致するように調和させているであろうか。(青年への使命 316)

バプテスマは世を放棄する最も厳粛な行為である。自己は告白によって、罪の生活に対して死んだのである。候補者が水に覆われ、全宇宙の前で、相互的な誓いがなされる。父と子と聖霊のみ名によって人は水の墓に横たえられ、バプテスマにおいてキリストと共に葬られ、神への忠誠という新しい生活を送るために水から上げられる。天の偉大なお三方が証人であられる。この方々は目には見えないが、臨在しておられる。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1074)

わたしたちは世に対して死んだのである。……わたしたちはキリストの死の様にひとしく葬られ、彼の復活の様にひとしく、よみがえらされたのであるから、わたしたちは新しい生活を送るべきである。わたしたちの命はキリストの命に結びつけられるべきである。(E・G・ホワイト原稿 70, 1900 年)

ペテロ第二の手紙の第一章には、クリスチャン生涯の漸進的な働きが示されている。この章全体が深い重要性を持つ教訓である。もし人がクリスチャンの美德を得ることに於いて、足し算の計画で働くなら、神は彼らのために掛け算の計画で働いてくださると約束なさっている。「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように」(ペテロ第二 1:2)。バプテスマによってイエス・キリストを信じる信仰を認めたすべての魂の前にその働きがおかれている。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1074)

もしわたしたちが自分たちの誓約に真実であるならば、わたしたちの前に天との交わりの門―人間の手もサタンも閉ざすことのできない門―が開かれている。(同上 1075)

御足の跡を歩む

「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。」(コロサイ 3:1)

新しい生活に入るすべての者は、自分のバプテスマに先立って、主が心を尽くした愛情を要求しておられることを理解しなければならない。……真理を実行することが不可欠である。木の性質はその結ぶ実で知られる。……真理への完全な改心が必要である。(伝道 308)

小さい時から安息日を遵守するよう教育されてきた……子供たちがいる。こういう子供たちの中には、この世の事に関しては忠実で、非常によい子供たちがいる。しかし彼らは、深く罪を自覚することがなく、罪を悔い改める必要も感じない。……そして自分たちの生活には、別に何もこれといってはつきりわかる罪がないので、自分たちがまあまあ良いのだとうぬづけるのである。わたしはこのような青少年たちに次のように言う権威を授けられている。自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。……あなたがたは、悔い改め、信じ、バプテスマを受けるように要求されている。キリストは全く義なるお方であられたが、世の救い主であられるこのお方は、罪人が神の子となり、神の世継ぎとなるために、ご自分が罪人に要求なさる過程をご自身がふまれることによって人に模範をお与えになった。

もし汚れのないきよい贖い主なるキリストが、罪人が改心の際に取るべき段階を取るためにへり下られたとすれば、真理の光に自分たちの道を照らされている者が、自分の心を神に明け渡し、謙遜に自分が罪人であることを告白し、言葉と行いによってキリストの贖罪を信じる信仰を示し、キリストに従うと告白する人々と利害を一つにすることをためらうべきであろうか。(教会への証 4 巻 40, 41)

キリストの生涯を研究し、そのみ教えを実行する者はすべて、キリストに似る者となる。彼らの感化力はこのお方の感化力ようになる。彼らは健全な品性を現す。彼らがへりくだって従順の道を歩み、神のみ旨を行うならば、彼らは神のみ事業の前進とそのみ働きの健全な純潔さのために影響力を発揮する。(伝道 313)

バプテスマにふさわしい時

「そこで今、なんのためらうことがあろうか。すぐ立って、み名をとなえてバプテスマを受け、あなたの罪を洗い落しなさい。」(使徒行伝 22:16)

今日、神の律法の教訓の一つを知らずに犯している者は多い。理解が啓発され、第四条の戒めの要求が良心に強く迫ると、彼らは自分が神のみ前に罪人であることを知る。「罪は不法である。」そして、彼は「その一つの点にでも落ち度があれば全体を犯したことになるからである」(ヨハネ第一 3:4, ヤコブ 2:10)。

正直に真理を探究する者は、罪を犯す口実として律法を知らなかったと訴えることはしない。光は彼の手の届くところにあった。神のみ言葉は簡明であり、キリストは彼に聖書を調べるようにと命じておられた。彼は神の律法を聖であり、正しく、善なるものとしてあがめ、自分の不法を悔い改める。彼は信仰によってキリストの贖罪の血を嘆願し、許しの約束をつかむ。彼が以前に受けたバプテスマに、今や彼は満足しない。彼は自分が神の律法によって有罪宣告を受けた罪人であることを認める。彼は新たに罪に対する死を経験し、新しい生活に歩むためによみがえることができるように、バプテスマによって、もう一度キリストと共に葬られることを望む。……

これは各個人が神を畏れて、良心的に自分の立場を取らなければならない問題である。……それを強く勧める義務は神以外のだれにも属していない。各個人が完全に納得して、この前進的な歩みに関して満足するように、聖霊と共にその人の思いに働いていただく機会を神に与えなさい。……

「再バプテスマ」は大きな特権であり、祝福として取り扱うべき事柄である。そして、それを受ける者がこの主題に対して正しい見解を持つなら、それをこのように考えるようになる。(伝道 372 ～ 375)

神の事柄に豊富な体験を持つことは、すべてのクリスチアンの特権であり義務である。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」とイエスは言われた(ヨハネ 8:12)。……信仰と服従は、一步ごとに、「少しの暗いところもない」世の光に、魂を密接に結びつける。(各時代の争闘下巻 205)

わたしたちの主の命令

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し」(マタイ 28:19)

こうしてキリストは、弟子たちに任務をお与えになった。働きの遂行にイエスは十分な道を備え、その成功の責任をご自身が負われた。彼らがイエスのことばに従い、イエスにつながって働くかぎり、失敗することはないのであった。すべての国民に行きなさいと、イエスは彼らにお命じになった。人の住むかぎりどんな地球の果てまで行っても、……信仰……をもって働きなさい。わたしがあなたがたを捨てる時は決してないのだから。

救い主が弟子たちにお与えになった任務には信者の全部が含まれていた。これには世の終わりにいたるまですべてのキリスト信者が含まれている。救霊の働きが牧師だけに負わされていると考えるのは重大な誤りである。天の靈感を受けた者はすべて福音をのべ伝える責任が負われる。キリストの生命を受ける者はみな同胞の救いのために働くように任命される。教会はこの働きのために設立されているのであって、聖なる誓約によって教会に加わるものはみなそのことによってキリストと共に働く者となることを誓ったのである。(各時代の希望下巻 368)

わたしたちは天来の命が他の人々に流れていく献身した通路となるべきである。聖霊が、教会全体を活気づけ、浸透して、信徒の心を清め、一つに結びつけるべきである。バプテスマによってキリストと共に葬られた者は、新しい命よみがえり、キリストの生活を表わす生きた模範となるべきである。……あなたは救いの福音を知らせる働きに捧げられている。神の完全があなたの力となるべきである。(教会への証 9 巻 20, 21)

ある時、ウエリントン卿は、クリスチャンの人々が異教徒の中における伝道活動の成功の可能性について協議する集会に出席していた。彼らは、かかる働きは、その経費に相当する成功を収めるかどうか、同卿の意見を求めた。この老兵は、「紳士諸君、諸君の進軍命令は何であるか。成功は諸君が討議すべき問題ではない。わたしが、諸君の進軍命令を正しく読むと、次のようにある。『全世界に出て行ってすべての造られたものに福音を宣べ伝えよ』。諸君、諸君の進軍命令に従いなさい」と答えた。(福音宣伝者 115)

眺めることによって変えられる

「わたしたちはみな、顔おいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)

思いがキリストにとどまるとき、品性は聖なるかたちにかたどって形成される。思想はこのお方のいつくしみ深さを自覚して、愛に満たされる。キリストのご品性を熟考し、こうしてこのお方がわたしたちのすべての思想を満たされる。その愛がわたしたちを包む。もしわたしたちが真昼の輝く太陽を一瞬でもみつめて目をそらすなら、見るもののすべての上に太陽の像が現れる。イエスを見つめるときに、このようになる。見るすべてのものの上に義の太陽、キリストの像が反映する。わたしたちは他に何も見ることができず、他に何も語ることができない。キリストの像が魂の目に焼きつき、わたしたちの日常生活のあらゆる面に影響を及ぼし、わたしたちの性質全体を和らげ、抑制する。見つめることによって、わたしたちは聖なる像、キリストの姿に同化される。わたしたちは交わるすべての人にこのお方の義という明るく快活な光を反射させる。わたしたちの品性は一変した。なぜなら、心と魂と思いは、わたしたちを愛し、わたしたちのためにご自身をささげられたキリストの反射によって輝いているからである。……

イエス・キリストはわたしたちにとってすべて一万事における最初であり最後であり、そして最上である。イエス・キリスト、このお方の御霊、そのご品性はすべてを彩る。それは縦糸と横糸であり、わたしたちの存在全体の生地そのものである。キリストのみ言葉は、霊であり命である。そのときわたしたちは、もはや自己に自分の思いを集中させることはできない。生きているのはもはやわたしたちではなく、キリストがわたしたちのうちにあって生きておられるのであり、このお方が栄光の望みであられる。自己は死んでいる。しかしキリストは生ける救い主であられる。(牧師への証 388～390)

わたしたちの心がキリストを瞑想し続けているならば、主は、「冬の雨のように、わたしたちに臨み、春の雨のように地を潤される」のである(ホセア 6:3)。主は義の太陽のように上り、「その翼には、いやす力を備えている」(マラキ 4:2)。わたしたちは、「ゆりのように花咲き」「園のように栄え、ぶどうの木のように花咲く」のである(ホセア 14:5,7)。キリストをわたしたちの個人的救い主と仰いで信頼することによって、わたしたちは、すべてのことにおいて、わたしたちのかしらであるキリストのように成長するのである。(キリストの実物教訓 46)

自分の十字架を負うて

「それから、みんなのものに言われた、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。』」（ルカ 9:23）

救いの計画の基礎は、犠牲のうちにしかれた。イエスは、わたしたちがご自分の貧しさによって富む者となるために天の宮廷を去って、貧しくなられた。神の御子によってこのような無限の犠牲をもって自分たちのために買われたこの救いにあずかる者はみな、真の型であられるお方の模範に従う。キリストは隅のかしら石であられ、わたしたちはこの土台の上に建てなければならない。一人びとりが自己否定と自己犠牲の精神を持たなければならない。地上でのキリストの生涯は無私の生活であり、謙遜と犠牲とに特徴づけられていた。そしてイエスが天から人類にもたすために来られたこの大いなる救いにあずかる者が、自分たちの主に従い、このお方の自己否定と犠牲にあずかることを拒むのであろうか。……僕は自分の主よりも大いなる者であらうか。……

「それからイエスは弟子たちに言われた、だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従って来なさい」（マタイ 16:24）。わたしは先立って自己否定の道に導く。わたしに従う者たちよ、あなたがたの主であるわたしは、わたし自身の生活であなたがたに示した模範以外には何もあなたがたに求めない。（教会への証 3 巻 387, 388）

自己否定と十字架とは、キリストに従うあらゆる者の道に横たわっている。十字架は生まれながらの愛情や意志に反対するものである。（教会への証 2 巻 651）

イエスはわたしたちの型であられる。もし主がご自分のへりくだりと苦しみを置きへ置き、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を喜ばせ、世俗を楽しめ、そうすれば彼はわたしの弟子である」と叫ぶなら、群衆はこのお方を信じて、従うことであらう。しかし、イエスは柔和で十字架につけられたお方のご品性以外の品性をもってわたしたちに臨まれることはない。わたしたちがこのお方と共に天国にいることを望むのであれば、この地上においてこのお方に似る者とならなければならない。（エレン・G・ホワイトのライフ・スケッチ 114）

わたしたちは救い主の単純さと自己否定のうちに、このお方に従おう。言葉と聖なる生活によってカルバリーのお方を高く掲げよう。（教会への証 9 巻 166）

キリストの後に従って十字架を高く掲げ、それを担うすべての者にとって、十字架は彼らが受けることになる不死の冠の保証である。（両親、教師、生徒への勧告 23）

良い習慣をつちかう

「わたしはみ言葉を守るために、わが足をとどめて、すべての惡の道に行かせません。」(詩篇 119:101)

わたしたちは時の終わりに近づいているので、今、世の好みや慣例に応じるのではなく、神のみ思いに応じたいのである。聖書はなんと言っているかを調べ、それから神がわたしたちに与えておられる光に従って歩みたいのである。(教会への証 5 巻 506)

青少年は、十中八、九、自分たちの将来を決定する習慣を形成している。彼らがつきあう仲間、形成する交友関係、彼らの取り入れる主義原則は彼らの一生に影響を及ぼす。(教会への証 4 巻 426)

わたしたちは個人個人、この世においても永遠においても、わたしたちの習慣がわたしたちを作り上げるものとなる。正しい習慣を身につけ、すべての義務を果たすことに忠実な者の生活は、輝く光のように、他の人々の歩む道に明るい光線を降り注ぐ。(同上 4 巻 452)

思いが絶えず靈的な事柄において働いているなら、靈的な小人になることはない。しかし、単にこの事のために、あるいはこのことについて祈るだけでは、問題の必要を満たさない。あなたは靈的事物に思いが集中するよう習慣づけなければならない。働かせるとき、力をもたらす。多くの自称クリスチャンは、両方の世界を失わなければならない。半分クリスチャンであり、半分世的な人であることは、あなたを百分の一クリスチャンに、残りを世的な人にするのである。(同上 2 巻 264)

思いは純潔を愛するように教育し、訓練されなければならない。靈的事物を愛する心が、助成されるべきであり、しかり、あなたが恵みと真理の知識とに成長したいのであれば、助成されなければならない。……意志は正しい方向に働かなければならない。わたしは心を尽くしてクリスチャンとなろう。わたしは、完全な愛の長さ、広さ、高さ、深さを知ろう。イエスのみ言葉に耳を傾けなさい、「義に飢えかわいている人々は、幸いである、彼らは飽き足りになるであろう」(マタイ 5:6)。義に飢えかわく魂を満たすためにキリストによって十分な備えがなされている。(同上 264～266)

イエスを恥としない

「わたしは（キリストの）福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救いを得させる神の力である。」（ローマ 1:16）

青年の多くは、イエスの精神を持っていない。彼らの心に神の愛がないために、神の御霊と救いの代わりに、ことごとく生まれながらのからみつく罪が勝利している。

真にイエスの宗教を持っている者は、彼らよりもっと経験のある者の前で十字架を負うことを恥じたり、恐れたりはしない。もし彼らが真心から正しくありたいと切望するなら、年長のクリスチャンから得ることのできるあらゆる助けを望む。青年たちは喜んで彼らから助けを受ける。神の愛によって暖められた心は、クリスチャンの道においてつまらないことに妨げられはしない。彼らは、神の御霊が彼らの内に働かれることを外に語る。彼らはそれを歌に表現し、また祈りに表現する。若者を後退させるのは、宗教の欠如であり、聖なる生活の欠如である。彼らの生活が彼らに有罪宣告を下す。彼らは自分たちがクリスチャンとしての生活をしていないことを知っているがゆえに、彼らは神に対して、また教会の前に確信がないのである。（教会への証 1 巻 154）

神のあわれみといつくしみ、救い主の愛のはかり知れない深さについて、語らなければならない。わたしたちの言葉は、讃美と感謝の言葉となるべきである。思いと心に神の愛があふれているならば、それが、会話にあらわれてくる。わたしたちの霊的生活の中にはいつてきたものを、他の人々に分け与えることは、むしろかしいことではない。（キリストの実物教訓 313）

あなたの信仰を決して恥じてはならない。決して敵の側に立っているところを見出されてはならない。「あなたがたは世の光である」（マタイ 5:14）。あなたの信仰は尊い真理として、すなわちすべての者が持つべきであり、かつもし救われないならすべての者が持たなければならない真理としてあらわされるべきである。……わたしたちは信仰の良き戦いを戦い、「堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励」んでいるところを見出されなければならない（コリント第一 15:58）。（教会への証 5 巻 520, 521）

聖なる生活の、気取らない無意識の感化は、キリスト教のために与えることのできる最も説得力のある説教である。議論は、たとえそれが相手に反論の余地を与えないものであっても、なお反対しか引き起こさないことがある。しかし敬虔な模範は、完全には抵抗できない力を持っている。（患難から栄光へ下巻 209）

意志を正しく働かせる

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:13)

神は、「もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会う」(エレミヤ 29:13,14) と約束しておられる。

わたしたちは心をすべて明け渡して神に従わなければならない。さもなければ、わたしたちを神のみかたちに回復する変化は起こらないのである。(キリストへの道 53)

純潔な宗教は意志に関わる。意志は人の性質における支配力であって、他のすべての機能をその支配下に置いている。意志は好みや傾向ではなく、人の子らの中に働いて神への従順か不従順かを決定する力である。(教会への証 5 巻 513)

「あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」と救い主は仰せになっている(ルカ 14:33)。たとえどんなものであっても神から心を引き離すものは捨てなければならない。多くの人は富を偶像にしている。金銭を愛し、富を欲することは、彼らを悪魔になが黄金の鎖である。ある人々は名声や世的な榮譽を神としている。また、何の責任も負わず、利己的な安楽な生活を偶像にしている人もいる。けれども、こうした奴隷のきずなは断ち切らねばならない。わたしたちは、なかば神に、半ば世につくことはできない。わたしたちは、全く神のものでなければ、神の子ではないのである。……

善と清きを望むのは正しいことであるが、そこでとどまるならば、なんの役にも立たない。クリスチャンになりたいと望みながら滅びていく人が多い。かれらは神に自分の意志をささげるところまでこないからである。かれらは今、クリスチャンになることを選ばないからである。(キリストへの道 55, 61)

主はわたしたちを集団として救おうとは仰せにならない。わたしたちは各自、自分で選択しなければならない。わたしたちは、一人ひとり神の恵みを魂に適用しなければならない。そしてだれも他の人のためにどのような道に進むかを決めてあげることはできないのである。(ユース・インストラクター 1895 年 10 月 17 日)

弱く動揺しやすい人間の意志を神の全能の力、不動の意志と結合させる者は、だれでも純潔で高尚な生活、すなわち、食欲、情欲に勝利する生活を送ることができる。(ミニストリー・オブ・ヒーリング[®] 151)

生涯の種まきの時

「まちがってはいけない、神は侮られるような方ではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」(ガラテヤ 6:7)

自然界の神の法則によれば、原因があれば、必ず結果が生じるということである。収穫によって、何がまかれたかがわかる。……

どの種でも、まいた種の実を刈り取る。人生においても同じである。わたしたちは皆、あわれみ、同情、愛などの種をまかななければならない。なぜなら、まいたものの実を刈り取るからである。また利己主義、利己心、自尊などの性質やわがままな行動には、すべてそれ相当の収穫がある。利己的な生活をして、肉の種をまくものは、その結果として滅びを刈り取るのである。

神は、人を滅ぼすようなかたではない。滅びにおちいる者は、自分で自分を滅ぼすのである。良心の警告をかえりみないものは、不信の種をまいて、必ずその収穫を刈り取るのである。むかし、パロは、神の最初の警告をしりぞけて、強情の種をまいたために強情の実を刈り取った。(キリストの実物教訓 63, 64)

歴史においてそれぞれの役者は自分の分と場所を占めている。なぜなら、神ご自身の計画に従って、このお方の大いなる働きは、善もしくは悪の立場を占めるように自ら準備した人々によって遂行されるからである。義に反対することによって人々は、不義の器となる。しかし彼らはこのような行為の道を取るように強制されてはいない。カインにその必要がなかったように、彼らは不義の器となる必要はないのである。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1104)

人は、神の下で形づくられた品性、もしくはサタンの残酷な支配下におかれた品性のいずれかに従って、自分自身の自由意志を行動に移す。(レビュー・アンド・ヘルド 1900 年 11 月 13 日)

どの行為、どのことばも実を結ぶ種である。情け深い心からの親切、服従、自己犠牲などの行為は、他の人々の心の中にふたたび生え出て、それが彼らによって、また、他の人々の心にまかれるのである。同様に、ねたみ、悪意、争いなどは、「苦い根」となってはえ、多くの人を汚すのである(ヘブル 12:15)。そして、この「多くの人」は、どれだけ多数の人びとを毒することであろう。(キリストの実物教訓 65)

愛する若い友人たちよ、あなたがたのまくものを、またあなたがたは刈り取る。今は、あなたがたにとって種まきの時である。収穫は何であろうか。(教会への証 3 巻 363)

失望してはならない

「わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」。(ヨシュア 1:9)

1844 年のあの時が過ぎて後、多くの兄弟姉妹が一つの集会に集まった。失望が激しかったのですべての者は深く悲しんでいた。やがて、一人の兄弟が「主にあつて勇気を、兄弟たちよ、主にあつて勇気を」と叫びながら、入って来た。彼はこの言葉を、すべての者の顔が輝き、あらゆる声から神への賛美があがるようになるまで繰り返した。

今日わたしは主なるお方のすべての働き人に向かって、「主にあつて勇気を」と申し上げる。

ある人はいつも、不快な落胆させる点を見るため、失望が彼らを襲う。彼らは、全天が自分たちを世の人々への祝福の代理人にしようと待っておられることや、主イエスは、人が力と勇気とを引き出すことのできる尽きない倉であられることを忘れる。意気消沈や不安の必要は何もない。サタンの暗い影がわたしたちの道に投げかけられなくなる時は決してこない。このようにして敵は、義の太陽からの輝く光を隠そうと努めているのである。しかし、わたしたちの信仰はこの暗い影を突き通さなければならない。(福音宣伝者 265, 266)

希望と勇気は、神に完全な奉仕をするために、ぜひ必要なものである。これらは信仰の実である。落胆は、罪深いことであり、不合理なことである。神はご自分のしもべたちが試練に遭ったときに必要な力を、「もっと豊かに」与えることがおできになり、そうしたいと思っておられる。……

氣落ちしている者に対して、信頼できる救済策がある。それは信仰と祈りと行いである。信仰と活動は、日毎に増大する確信と満足とを与える。……一見絶望的で最悪の事態にあつても恐れてはならない。神を信じよう。(国と指導者上巻 133)

キリストは衰えも、落胆もされなかった。キリストに従う者たちはこれと同じ持久力のある信仰をあらわすのである。……どんなことにも失望することなく、どんなことにも望みを持つのである。キリストは、ご自分の比類のない愛という黄金の鎖で、彼らを神のみ座に結びつけられた。(各時代の希望下巻 170)

あなたのための生命保険

「兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。」（ペテロ第二 1:10）

天の会議において、人類は律法を犯したにもかかわらず、その不従順のうちに滅びることなく、自分たちの身代わりまた保証人としてのキリストを信じる信仰を通して、み旨の良しとするところに従い、イエス・キリストによってこのお方につく神の子たる身分を授けられることをあらかじめ定めてくださり、神に選ばれたものとなることができるように備えがなされた。神はすべての人が救われることを望んでおられる。人類の身代金を支払うためにそのひとり子をお与えになって十分な備えがなされているからである。滅びる者は彼らがキリスト・イエスを通して神の子になることを拒むことによって滅びるのである。……

神の御言には、無条件の選び、すなわち一度恵みのうちに入れば、永久にその中にいるというような教えはない。ペテロ第二の二章に、この主題ははっきりと明確にされている。悪の道を歩んだある人の歴史の後に、次のような説明がなされている。「彼らは正しい道からはずれて迷いに陥り、……ベオルの子バラムの道に従った。バラムは不義の実を愛し」（ペテロ第二 2:15）。……ここに使徒が警告する種類の人々がいる、「義の道を心得ていながら、自分に授けられた聖なる戒めに背くよりは、むしろ義の道を知らなかった方がよい」（ペテロ第二 2:21）。……

魂が救われるには、受け入れるべき真理がある。神の戒めを守ることは、受ける者にとって永遠の命である。しかし、聖書は、一度命の道を知って真理のうちに喜ぶ者が背教によって墮落し、失われる危険のあることを明らかにしている。それゆえ、日ごとに断固とした神への改心の必要がある。

一度救われたならば永久に救われるという選択の教理を支持しようとするすべての者は「主はこう言われる」との明白な宣言に反してそうするのである。（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1114, 1115）

あなたが、神に選ばれた者として永遠の生命保険を受ける者に与えられた利益を受けるか否かはあなたの取る行動方針いかににかかっているのである。（同上 7 巻 944）

研究 13

最後の出来事



キリストの再臨

Christ's second coming

これまで、キリスト者の前にある最後の悩みの時に立ち得るためには、今、キリストにあって完全になることを求めなければならないことを学びました。キリストはそのために、今、至聖所で罪の除去の働きをしておられます。後の雨が注がれ、最後の試練と分離によって、真のキリスト者と心に偽りのある信者が区別されると、キリストは至聖所を出られ、ヤコブの悩みが始まります。「サタンの攻撃は強烈で、その欺瞞は陰険である。しかし主の目は、神の民を見ている。彼らの苦難ははなはだしく、炉の火は今にも彼らを焼きつくすかのように思われる。しかしイエスは、彼らを火で練られた金のように取り出される。彼らは、世俗的なところが取り去られて、キリストのかたちを完全に表すようになるのである」(国と指導者下巻 195)。

そのとき、キリストは来られるのです。

主の再臨を待ち望んでいる信仰の聖徒である皆様へ、「主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にあるように」(コリント第二 13:13)。

わたしたちが生存している時代は、約二千年前の私たちの主イエス・キリストの初臨の時と非常によく似ています。いえ、それよりさらに冷淡な時代であることが、霊的識別力を持っている方ならすぐに理解できることでしょう。

「今の時代を何に比べようか。それは子供たちが広場にすわって、ほかの子供たちに呼びかけ、『わたしたちが笛を吹いたのに、あなたたちは踊ってくれなかった。串の歌を歌ったのに、胸を打ってくれなかった』と言うのに似ている」(マタイ 11:16, 17)。

前記のみ言葉から、皆様はどのような感銘をお受けになるでしょうか。ここで「踊るために笛を吹いた」というのは、最後の大争闘と主イエス・キリストの再臨に備えさせるためにバプテスマのヨハネのようにメッセージを伝えることを意味します(エゼキエル 33:1～9; イザヤ 58:1 参照)。また、「弔いの歌を歌ったのに、胸を打ってくれなかった」というのは、神の真の民が、この地、特に教会の中で行われている憎むべきことについて嘆き悲しんでも(エゼキエル 9:4 参照)、これに対して何の感銘もないということです。「聖霊を悲しませ」ることを(エペソ 4:30)、何の良心の呵責もなく行っているということは、とても恐ろしいことです。このようにわたしたちの主が警告された次の言葉が各個人に対して何の警戒心も起こさない時代だということがはっきりわかります。

「あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕らえることがないように、よく注意していなさい。その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」(ルカ 21:34～36)。

霊的昏睡状態に陥り、真のメッセージを聞いても、何の反応も起こさないようにするのは、確かに敵の働きであることがわかります。イエスは、「あなたがた自身のため、また自分の子供たちのために」(ルカ 23:28)、また教会の中で行われている憎むべきことについて嘆き悲しんでいる者(マタイ 5:4)の額にしるしをつけることを(エゼキエル 9:4)、切に願っておられます。しかし、このあわれみの御声もだんだん消えてきています。真に「嘆き悲しむ」べき時に嘆き悲しまない者は「遅すぎた」という悲痛の涙を流さなければならなくなるでしょう。「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終わった、しかしわれわれはまだ救われない」(エレミヤ 8:20)。これらの者は慰めを受けることがないのです(マタイ 24:51 参照)。

もう一つ否定できない事実は、この恵みの時に神の恵みをいたずらに受けて(コリント第二 6:1)、「激しい怒りのぶどう酒」に酔っている者は(黙示録 14:8)、終りの神の御霊の働きが成就されるとき、使命者たちに向かって次のように語ることです。「みんなの者は驚き惑って、互に言い合った、『これは、いったい、どういうわけなのだろう』。しかし、ほかの人たちはあざ笑って、『あの人たちは新しい酒で酔っているのだ』と言った」(使徒行伝 2:12, 13)。しかし、神の僕たちは次のように語るでしょう。「そこで、ペテロが十一人の者と共に立ち上がり、

声をあげて人々に語りかけた。『ユダヤの人たち、ならびにエルサレムに住むすべてののかたがた、どうか、この事を知っていただきたい。わたしの言うことに耳を傾けていただきたい。今は朝の九時であるから、この人たちは、あなたがたが思っているように、酒に酔っているのではない。そうではなく、これは預言者ヨエルが預言していたことに外ならないのである。すなわち、『神がこう仰せになる。終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。…』(使徒行伝 2:14～17)。

私たちが長く待ち望んでいたイエスはもうすぐおいでになります。「悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはない」(ダニエル 12:10)。その時に私たちの望みの中心であられるイエスは、すぐにまた確かにおいでになります。この世においてだれよりもイエスの再臨を待ち望んでいたのは、イエスが昇天された時、その姿を自ら目撃した愛する弟子たちでした。彼らの経験を預言の霊は次のように語っています。

「弟子たちが昇天して行かれた主の最後のみ姿を捉えようと上の方を見上げていると、主は天使たちの喜びの群れに迎えられた。…

弟子たちがなおも熱心に天を見ていると、『見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて言った、『ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう』(使徒行伝 1:10, 11)。

キリストの再臨のみ約束は、弟子たちの心にいつも鮮明に刻まれていなければならなかった。彼らが昇天されるのを見ていたそのイエスは、この地上で主の働きに献身する人々をみもとに連れて行くために再び来られるのである。『見よ、わたしは終りまで、いつもあなたがたと共にいる』と彼らに言われた同じ声が、彼らを天のみ国で、み前に迎えてくださるのである。…

大祭司が至聖所の儀式をとり行ったあと、待っている会衆の前に祭司服を着て現れたように、キリストは、『どんな布さらしでも、それほどに白くすることはできないくらいに』真白く輝く衣を着て、再び来られるのである(マルコ 9:3)。主はご自分の栄光と父の栄光に包まれておいでになり、すべての天使たちの群れが主のあとにつき従うのである。

こうしてキリストの『またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう』という、弟子たちへの約束は果たされるのである(ヨハネ 14:3)。主を愛して待つて

いる人々には、主は栄光と名誉と不死のいのちで報いてくださるであろう。死んでいる義人は墓から出て来るであろう。また生きている義人は空中でとらえられて主にお会いするであろう。人間がこれまで耳にしたどんな音楽よりもすばらしいキリストのみ声が、あなたの戦いは終わったとお告げになるのを彼らは聞くであろう。『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい』（マタイ 25:34）」（患難から栄光へ上巻 27, 28）。

わたしたちの主イエスの再臨を待ち望んでいた信仰の父祖たちは、各時代の様々な環境においても揺るがぬ信仰をもって、再臨の日を待ちわびていました。彼らについての預言の霊の記録を要約すると、次の通りです。

- A. エノク（生き残る人々 73）
- B. アブラハム（人類のあけぼの上巻 138）
- C. モーセ（人類のあけぼの下巻 95）
- D. ヨブ（キリストの実物教訓 397）
- E. ダビデ（各時代の犬争闘上巻 368）
- F. イザヤ（各時代の犬争闘上巻 386）
- G. ハバクク（各時代の犬争闘上巻 387）
- H. マラキ（各時代の犬争闘下巻 140）
- I. ペテロ（患難から栄光へ下巻 237）
- J. パウロ（患難から栄光へ上巻 246）
- K. ワルデンセス（各時代の犬争闘上巻 390）
- L. 初期のキリスト者たち（各時代の犬争闘下巻 29）

前記の人々にとってキリストの再臨は、「祝福に満ちた望み」（テトス 2:13）であったのです。愛する皆様！イエスの再臨は、皆様にとっても「祝福に満ちた望み」となっているのでしょうか。それとも、昔から伝えられて来た伝説や、あるいはおとぎ話のように感じてはいないのでしょうか。そして、もしかしたら、「イエスの再臨がとどこおる」ことを願ってはいないのでしょうか。「愛する兄弟姉妹がた、神の戒めとイエス・キリストの証を常に心に抱いていよう。そして、それに世の思いと煩いを閉めだしていただく。寝る時も起きる時もこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行動をとろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われ

われの召しと選びとを確かなものにする時である」(初代文集 130)。

「われわれは、自分たちの生活によって、神をあがめ、われわれの清く聖なる行状によって、われわれが上から生まれたものであることを示し、この世は、われわれの故郷ではなくて、われわれは、ここではよりよい国に向かって旅をしている旅人であり寄留者であることを、示さなければならない」(初代文集 213, 214)。

「わたしたちは、この地上歴史の終結する場面に生きているのである。預言は急速に成就しつつある。恵みの期間は、すみやかに過ぎようとしている。わたしたちには時間がない。一刻たりとも失ってはならない。見張りに立って眠っているところを見つけれないようにしよう。だれも『わたしの主人は帰りがおそい』と心に思ったり、行動にあらわしたりしてはならない。キリストが間もなく再臨なさるという使命を、熱心な警告の言葉で鳴り響かせなさい。…

主は間もなく来られるのであるから、わたしたちは、平安のうちに主をお迎えする用意ができていなければならない。周囲の人びとに光を分け与えるために、力の限りを尽くす決心をしよう。わたしたちは悲しんでいるのでなく、喜びに満たされて、常に主イエスを私たちの前に置かなければならない。主はもうすぐ来られるのであるから、わたしたちは彼の出現に備えて用意をし、待っていないのである。主にお目にかかり、贖われた主の者として迎えられとは、何とすばらしいことであろう!わたしたちは長い間待ったが、わたしたちの希望を曇らせてはならない。麗しい王を見ることさえできるならば、わたしたちは永久に祝福されるのである。『故郷へ帰るのだ』とわたしは大声で叫ばなければならないような気がする。キリストが、あがなわれた者たちを彼らの永遠の故郷に連れていくために、力と大いなる栄光のうちに来られる時に近づいている。…

長い間、わたしたちは救い主の再臨を待ってきた。それでもなお、み約束は確かである。間もなくわたしたちは約束された故郷に入るであろう。そこではイエスがわたしたちを、神のみ座から流れてくる命の水のほとりに連れていってくださり、この地上で主が、わたしたちの品性を完成するためにお与えになった暗いみ摂理を説明してくださるであろう。またそこでは、回復されたエデンの園の美しさをはっきりと眺めるであろう。わたしたちは、あがない主がわたしたちの頭にかぶせてくださった冠をそのかたの足もとに投げ出し、黄金の立琴をかき鳴らして、御座に座しておられる主を賛美する歌声を全天に満ちあふれさせるのである」(教

会への証 8 巻 252～254)。

「兄弟姉妹がたよ、天の雲に乗って来られるキリストの再臨に備えるよう、わたしは、熱心におすすめる。日ごとに、あなたの心から世に対する愛を捨てなさい。キリストとの交わりを持つということが、どんなことであるかを体験によって理解しなさい。裁きに備えなさい。それは、キリストが来られて、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるとき、平安をもって主にお会いする人々のうちに、あなたもいるためである。…

わたしたちは故郷に行く途中である。わたしたちのために死なれるほど愛してくださったおかたが、わたしたちのために都を築かれた。新エルサレムはわたしたちの休息の場所である。神の都に不幸はない。悲しみの泣き声も、砕かれた希望や葬られた愛情の悲歌はもはや聞こえない。間もなく憂いの衣は結婚の衣に変えられる。間もなくわたしたちは王の戴冠式を見るのである。自分の命がキリストのうちに隠されていた者、この地上において信仰のよき戦いを戦った者は、神のみ国において救い主の栄光に輝くのである。

わたしたちが自分たちの永遠の命の望みを集中させてきたおかたにお会いするのは、遠い先のことではない。」(教会への証 9 巻 285, 287)。

愛する兄弟姉妹の皆様! 私たちにご自分の再臨を待ち望むように言われたイエスご自身が、次のように語っておられます。「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」(黙示録 22:12)。私たちの神の豊かな恵みによって、私たちが皆、使徒ヨハネと共に、「アメン、主イエスよ、きたりませ」と叫ぶ準備が早くできますように切に願っております(黙示録 22:20)。

「もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない」(ヘブル 10:37)。アメン。

従順(じゅうじゅん)になるように、愛をもってまねいておられます。

ときどき、そうすることがむずかしいことがあります。とくに他の子どもたちがわたしたちをなやませたり、いつもやりたいとはかぎらないことをやるように大人から言われたりする時はそうです。しかし、わたしたちが心のそこでは自分の義務(ぎむ)だとわかっていることに抵抗(ていこう)するときはいつでも、わたしたちの心はかたくなになり、あらあらしくなります。わたしたちの考えは怒(おこ)りはじめます。そのような態度(たいど)は、わたしたちのために神様が計画しておられることではありません。

イエスはものごとがいつもわたしたちにとって順調(じゅんちょう)にいくわけではないことをごぞんじです。ですから、このお方は「目をさまして祈(いの)っていなさい」と言われます(マルコ 14:38)。まず、あなたが反抗(はんこう)しないように、あなたががんこで不親切(ふしんせつ)な態度にならないように、そしていやな方法で考えたり、自分の義務をはたさなかったりすることがないように目をさましていなさい。

次に祈りなさい。イエスは人生がしばしばむずかしいこと、またいつもわたしたちをなやませようとする敵(てき)がいることをごぞんじです。祈りは悪い誘惑(ゆうわく)に抵抗するために必要(ひつよう)です。

「あなたの神のもとへ行きなさい。このお方は強く、子らが祈るのを聞くのを愛されるお方である。そしてあなたは自分が、目をさましていなさいとのわたしたちの救い主のはじめの命令をなおざりにしたがゆえに自分が非常に弱いと感じ、またときどき自分が敵に打ち負かされるのを見出すかもしれないが、苦闘(くとう)をやめてはならない。前よりももっと自ら力強く努力しなさい。……神はあなたを助けてくださる。御使(ごし)たちがあなたを見守ってくれる。……

少なくとも一日三回、時間を決めて特別な祈りの時間を持ちなさい。」(1-ス・イストラクタ- 1855 年 10 月 1 日)

そうです。神様に助けてくださるように求めなさい。このお方はあなたをもっと幸せにすることができ、人生におけるすべてのあらくてかたいところをやわらかくすることがおできになります。「すべての無慈悲(むじひ)、憤(いきどお)り、怒(いか)り、騒(さわ)ぎ、そしり、また、いっさいの悪意(あくい)を捨(す)て去りなさい。互(たがい)に情深(なさけぶか)く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい」(エペソ 4:31, 32)。

ヤクシク（韓国風薬膳）

【材料】

もち米	5 カップ（一晩水にかしたもの）
くるみ	1 カップ（あらく切る）
乾燥なつめ	50g（2 & 1/2 カップ：種を取ってあらく切る）
甘栗	1 カップ（ふたつ切り）
松の実	1/4 カップ
シナモン	太さじ 1
ごま油	1/2 カップ
サラダ油	1/2 カップ
粗糖	1 & 1/2 カップ

【作り方】

1. もち米を湯気の立った蒸し器に入れ、20 分くらいしたら、蒸し上がりを確認しながら、ふっくらと指先でつぶれるくらいになるまで蒸す。
2. 大きな容器にすべての材料を入れ、十分に混ぜ合わせ、なじむまで一時間ほどおく。
3. 再び湯気の立った蒸し器で 20 分ほど蒸す。
4. 好みの型に入れて、室温で冷ます。このとき、もち米をつぶしすぎず、またばらばらすぎず適度な押し加減でつめるのがコツです。

シナモンはお好みで。

冷蔵庫には入れずに、当日中にお召し上がりください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



成功のために やわらかくされる



なぜ、わたしたちはほとんどみな、赤ちゃんが大好きなのでしょう？
すべての年代の人が赤ちゃんで一つ好きなところは、とってもやわらかいところです！赤ちゃんの生き生きとした新しい肌は、まるでバラの花びらのようです。それはたしかに特別です。わたしたち自身が赤ちゃんだった時でさえ、やわらかいおもちゃが好きだったのです！わたしたちが生まれてから、すぐに固いものとやわらかいものがあることを学びます。そしてわたしたちは人生においてたいいていやわらかく、心地よいものにひかれます。

神様は「かたさ」と「やわらかさ」という概念（がいねん）を、人を描写（びょうしゃ）するのにお使いになります。このお方はわたしたちの思いの中において静かな小さい声でわたしたちの心に語りかけられます。それが「良心（りょうしん）」と呼ばれるものであり、それが聖書の中で、あるいは親や先生から学んだ良いことをわたしたちに思い起こさせてくれるのです。わたしたちは、神様の声がわたしたちの良心に語りかけてくださるとき、本当に注意を払うべきです。わたしたちは、「あなたがたは、きょう、そのみ声を聞くように。あなたがたは、……心をかたくなにしてはならない」と言われています（詩篇 95:7, 8）。

わたしたちの心をかたくなにすると、どういう意味でしょうか？出エジプトの物語の中で、エジプトの王はがんこになって神様に聞き従うことをこぼむことによって、心をかたくなにしました。その結果はどうだったでしょう？永遠の損失（そんしつ）です。主はわたしたちがこのように苦しみ失われてほしくないのです。このお方はそのかわりにわたしたちが、やわらかく